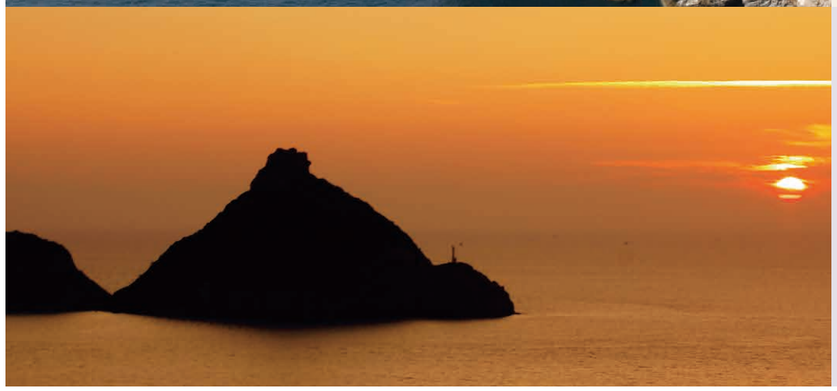
国境の島 壱岐・対馬・五島への誘い。

全国の都道府県の中で、
有人島の数が最も多い長崎県。
古代から変わらぬ
雄大な自然と、
海を介して大陸や
朝鮮半島と深く
つながっていた歴史が織りなす
「国境の島 壱岐・対馬・五島」は、
2015年、日本遺産※第一号に
認定されました。

日本本土と大陸の中間に位置することから、長崎県の島は、古代からこれらを結ぶ海上交通の要衝であり、交易・交流の拠点でした。特に朝鮮半島との関わりは深く、壱岐は弥生時代、海上交易で王都を築き、対馬は中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を独占し、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えました。その後、中継地の役割は希薄になりましたが、古代住居跡や城跡、庭園等は当時の興隆を物語り、焼酎や麺類等の特産品、民俗行事等にも交流の痕跡がうかがえます。国境の島ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と交流が続くこれらの島は、国と国、民と民の深い絆が感じられる稀有な地域です。



壱岐市

●壱岐市立一支国博物館

常設展示室では国指定特別史跡「原の辻遺跡」で発掘された土器などに触れることもでき、子どもから大人まで楽しみながら歴史を体感できる博物館です。原の辻遺跡そばの「原の辻ガイダンス」では勾玉づくりや火おこしなどの古代技術を体験することができます

●内海湾

一支国の王都、原の辻を訪れる古代船が往来した玄関口。ここに船を停泊し、小舟に乗り換えて人や物資を運んでいました。江戸時代末期の1861（文久元）年に書かれた「壱岐名勝図誌」にも内海湾の様子が挿絵で描かれており、多くの船が往来していたことが記録に残っています

対馬市

●金田城跡

667年に唐や新羅の日本進攻を防ぐ目的で築かれた朝鮮式山城跡です。浅茅湾南岸に突き出した「城山」の山頂から、東側一帯にかけて、総延長およそ2.9kmにもなる石垣の城壁が環状に巡らされています

●万松院の三具足

朝鮮国から贈られたと伝わる青銅製の祭礼用三具足。亀の上に鶴が乗った鶴亀の燭台と香炉、そして花瓶の3点で、万松院の本堂に大切に安置されています。大胆で繊細な装飾に目を奪われます

五島市

●三井楽

三井楽町の柏崎公園に立つ「辞本涯」の石碑。「死を冒して海に入る　既に本涯を辞し…」と、空海はここ日本最果ての地を出航し、唐へと旅立ちました

●ともづな石

遣唐使船のとも綱を繋いだという「ともづな石」は、海上安全を祈る小さなお堂の祭壇下に、隠れるように祀られています

新上五島町

●日島の石塔群

海岸沿いに広がる70基以上の石塔群。これらの石は、大陸との交易品を若狭湾に運び、帰りの船にバラストとして持ち帰ったともいわれ、ここが海上交易の拠点だった証拠と考えられています

●山王山

空海とともに中国の仏教を学んできた最澄が、無事帰国後、山王神を勧進し遣唐使の航海安全を祈願するため開いたと伝わるのが山王山です。中腹にある二ノ宮の岩窟内には宋代の舶載鏡が奉納され、大陸との交流を学ぶことができます

※日本遺産　地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。本県からは、2015年度に「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」、2016年度に「日本磁器のふるさと ～百花繚乱のやきもの散歩～」と「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～」、2020年度に「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」が認定されました。

Japan Heritage Sites in Nagasaki

Border Islands

ながさき めぐり
Nagasaki Meguri
A Guidebook to Nagasaki

●問合先／県の文化振興・世界遺産課 電話 095-895-2762